令和６年度　学校評価シート

[資料2]後期

＜学校経営方針の重点＞
１ 確かな学力の向上　２ 心の教育の推進　３ 健やかな体の育成　４ 地域と共に歩む学校づくり

青梅市立吹上小学校

項目	経営目標	具体的な方策（対応する学校経営案プロット）	評価(A,B,C,Dは%) 平均はA=4,B=3,C=2,D=1で算出	教職員	保護者	児童	分析結果	改善策	担当	学校関係者評価 コメント	学校の見解と今後の方向性
確かな学力の向上	「高く(知)」…基礎的・基本的な内容を身に付け、視野を広げ、知性を高める。	①各教科の基礎的・基本的知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学ぶ力を育成する。そのために、家庭と協力し合い家庭学習が習慣化できるよう徹底を図ったり、図書活動や身近な環境についての学習を推進していく。	A	39.1%	41.8%	37.2%	児童・保護者・教職員の8割以上でAB評価となっている。児童のC・D評価の割合が前期より多くなってしまっている。原因として、後期は学習内容が難しくなり、学習が身に付いていないと感じている児童が増えたことに依るものであると考えられる。	全校算数でわり算の習熟を図るなど、前期の結果分析に基づいた指導方法の改善を始めている。児童自身が達成感を味わえるよう、反復練習に取り組み、基礎・基本の知識・技能を身に付けさせていく。	研推（学力）	基礎・基本の知識・技能の習得のために、反復練習は重要である。学校が学力の定着に向かって努力しているのを感じる。改善策の実施を期待する。	全校算数、ステップアップクラスの充実をさらに図っていく。各教科で反復練習に取り組んでいく。一層、家庭と協力し家庭学習が習慣化できるようにしていく。
			B	60.9%	47.3%	52.7%					
			C	0.0%	7.7%	7.1%					
			D	0.0%	1.1%	1.8%					
			E	0.0%	2.2%	1.3%					
		②タブレット端末、電子黒板を日常的な指導に生かすとともに、ICTを効果的に活用し、個別最適化された学びの実現に取り組む。GIGAスクール構想の効果的な活用をめざし、教材の開発や指導法の向上させ、教師の授業力向上に繋げるとともに、児童への情報モラルやリテラシーの指導を進めていく。	A	65.2%	38.5%	65.5%	教職員がAB評価のみとなり、校内で積極的にICTを活用しようとしていることが分かる。保護者のE評価が半減し、AC評価が増えた。少しずつではあるが、ICT活用の様子が伝わっていると考えられる。児童のC以下の評価が減り、AB評価が95%を超えていることから、児童が意欲的にタブレット端末を活用できていることが考えられる。	保護者が直接的に学校のICTの活用状況を知る機会が授業公開しかない。そのため、児童が取り組んでいる様子を保護者会でお伝えしたり、タブレット端末に触れていただく機会を設けたりするとより実感していただけるのではないかと考える。	情報・視聴覚	ICTの活用が十分になされていると思う。保護者からは、タブレットの使用の様子があまり見えてこないので、家庭には伝わっていないのではないか。情報モラルやリテラシーの指導が重要になってくる。	継続して日常的にICTの効果的な活用を行っていく。タブレットの使用の様子について、ホームページで伝えてきたが、家庭に伝える方法をさらに検討していく。情報モラルの指導も家庭と連携して重ねて行っていく。
			B	34.8%	44.0%	29.6%					
			C	0.0%	8.8%	4.0%					
			D	0.0%	0.0%	0.4%					
			E	0.0%	8.8%	0.4%					
		③児童が五感を通して実際に実感したことを基に学ぶことができる体験的活動を重視していくとともに、教科横断的な学習を取り入れ、カリキュラムマネジメントを行っていく。	A	43.5%	39.6%	36.3%	前期の反省を基に教員が意識をもって体験的な学習活動を展開したことで、教員のE評価が減った。概ねAB評価の割合が多いが、児童のC評価の割合が1割程度いるのは「読む」ことへの自信の無さからくるものであると考えられる。	体験的な活動に引き続き取り組み、児童が実感をもって学べるようにしていく。また、音読学習を授業内で行うことを増やし、児童が五感を通して読む力を身に付けられるようにしていく。	研推（学力）	体験型の学習は、ますます大切なものになってくると思う。音読は重要な取組だと思う。継続することで、力が付くと思う。併せて聞くことも大切である。	コロナ禍前のカリキュラムを基に、体験型の学習を再編している。さらに地域の人材や環境を活用した活動を発掘していく。音読をはじめ、次年度も読みの力を身に付けるための指導法を校内研究を中心に行っていく。
			B	47.8%	45.1%	48.2%					
			C	8.7%	13.2%	11.5%					
			D	0.0%	0.0%	1.3%					
			E	0.0%	2.2%	2.7%					
豊かな心の育成	「やさしく(徳)」…やさしくよりよく人と接する心を育て、豊かな精神を身に付ける。	④人権尊重の精神のもと、いじめ・差別や偏見を許さない指導を全校体制で行い、児童の人権感覚を高め、自己肯定感を培う。	A	73.9%	35.2%	48.2%	保護者のA評価が増えている。しかし児童のC・D評価が増えてしまった。1学期と比較し、児童同士の関係性の変化(慣れ等)により、休み時間や放課後等のトラブルが原因と見られる。	いじめ・差別・偏見に対する指導の周知を引き続き行っていく。教職員で情報共有をし、学校全体で児童の指導にあたる。いじめアンケートも活用し、早期発見・早期解決を行う。	生活指導	人権尊重は、社会に出てからも大切なことである。教職員と保護者の感覚に開きがあるように感じる。いじめを根絶すること、何が真実か見極めることは難しい。解決に向けて、早期発見・早期対応が重要になる。	いじめ・差別・偏見に対する指導について保護者に周知する機会を設け、さらに理解を図っていく。学校では引き続き、早期発見・早期対応を行っていく。
			B	26.1%	48.4%	37.2%					
			C	0.0%	7.7%	7.1%					
			D	0.0%	1.1%	0.9%					
			E	0.0%	7.7%	6.6%					
		⑤道徳の年間計画と各教科等における道徳教育の関連性を重視し、道徳教育の要としての授業を充実させ、児童の道徳性を育成する。	A	52.2%	36.3%	54.4%	教職員・保護者・児童全てにおいてA・B評価が90%を超えた。教科化されてから数年が経ち、教職員の授業展開の工夫が見られ、子供たちも主体的に取り組んでいる成果と考える。	90%以上を継続するために、教職員への道徳授業改善OJT等を実施する。	生活指導	人の気持ちが分かる児童を育成する必要がある。道徳の授業で、思いやりのある、発言や記述が見られた。一方、日常で友達とのトラブルがある。道徳の授業で感じたことをそのまま生活に生かせることが大切である。	今後も継続して、道徳の学習したことを実生活で生かしていくという視点で授業改善を行っていく。その上で、保護者と連携して、児童の道徳性を育成していく。
			B	47.8%	56.0%	37.2%					
			C	0.0%	1.1%	4.9%					
			D	0.0%	0.0%	1.3%					
			E	0.0%	6.6%	2.2%					
		⑥心の教育を充実させ『一人一人の輝き』と『共に生きる力』を導く。日常の取組として、「あいさつ」を徹底する。また、縦割り班活動をはじめ、異学年交流を通して、「思いやりの心」を育む。	A	60.9%	46.2%	54.9%	教職員・保護者・児童全てにおいてA・B評価が高い。縦割り活動を中心に、学校行事や学級活動の中でも異学年交流が充実してきた。朝会等で「あいさつ」に関して繰り返し話をしている。	あいさつや縦割り班活動の重要性を子供たちに意識させながら指導を継続していく。	生活指導	地域で声をかけるとしっかりあいさつをしてくれる児童が多くいる。近所を通る子供たちであいさつをする子が増えた。あいさつをする子が減った気がする。大人への警戒心もあるのでは。	あいさつの指導を重点として継続していく。今年度、充実させてきた、縦割り班活動を軸に、異学年交流を継続して実施していく。
			B	39.1%	50.5%	35.0%					
			C	0.0%	2.2%	5.3%					
			D	0.0%	0.0%	1.8%					
			E	0.0%	1.1%	3.1%					
		⑦特別支援学級・特別支援教室設置校の特色を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内の組織体制を活用して、特別支援教育の理解と推進を図る。	A	65.2%	35.2%	46.0%	保護者のAB合わせてプラス2．4、児童は4．7プラスになった。分からないとの回答は児童、保護者ともに減っている。運動会を含めた交流が理解につながっているのではと考える。	教職員においては特別支援理解教育研修を通して、特別支援教育の推進を図る。児童に対してはあおぞら学級やひまわり教室の理解教育を行う。	教育相談	運動会で一緒に走る姿に感動した。アンケート評価から、特別支援教育が進んでいると思われる。	教職員で特別支援理解教育研修を継続して実施していく。次年度はさらに、児童の特別支援教育の推進を図るために、あおぞら学級やひまわり教室の理解教育を行っていく。
			B	30.4%	53.8%	29.2%					
			C	4.3%	3.3%	15.0%					
			D	0.0%	1.1%	5.8%					
			E	0.0%	6.6%	4.0%					
健やかな体の育成	「たくましく(体)」… 健康・体力の向上を図り、健康で強い意志を育てる。	⑧体育指導や体育的行事などの充実を図る。持久走週間やなわとび週間を体育科の指導と関連させ、運動の日常化を図るとともに、体力向上・健康増進に努める。	A	52.2%	46.2%	65.7%	教職員のAB評価が10割、保護者のAB評価が9割以上とおおむね達成できていると思われる。児童のAB評価は8割以上と高いものの、前期と比べて減っている。その理由として、気温の高い日に外遊びができなかったことにあると考えられる。	寒くなってくるが、引き続き外遊びを推奨していく。また、「なわとび週間」や「持久走週間」等で、休み時間に外に出る機会を増やしていく。	体育的活動	異常気象によって外活動の難しさがあると思う。体育館の空調を活用して、体力向上に努めてほしい。外で何をして遊んだらいいか分からない子もいると思う。家庭でも外で遊ぶよう声をかけることも大切だと思う。	改善策の通り、引き続き外遊びを推奨していく。また、「なわとび週間」や「持久走週間」等で、休み時間に外に出る機会を増やしていく。体育の時間以外の体育館の空調の利用について検討する。
			B	47.8%	48.4%	21.2%					
			C	0.0%	3.3%	6.5%					
			D	0.0%	0.0%	4.1%					
			E	0.0%	2.2%	2.4%					
		⑨安全指導の徹底を図り、自らの生命は自分で守る態度や能力を培う。	A	73.9%	46.2%	68.2%	1学期から継続して子供たちの安全に生活することへの意識は高い。日々の避難訓練や安全指導への指導の徹底を続けていく。	日々の避難訓練や安全指導から、自分の命を守る行動やその能力を養っていく。	生活指導	遅刻する児童が歩いているのを見かける。家庭でも学校でも安全指導を徹底していってほしい。様々な分野での安全指導を継続して、児童が正しい判断をできるようにしてほしい。	遅刻早退時は安全上、保護者の送り迎えをお願いしているが、今後も連絡を継続していく。避難訓練や安全指導を継続して、自分の命を守る行動やその能力を養っていく。
			B	26.1%	49.5%	26.9%					
			C	0.0%	4.4%	3.3%					
			D	0.0%	0.0%	0.0%					
			E	0.0%	0.0%	1.6%					
		⑩基本的生活習慣の育成を図るとともに、最後まで粘り強く取り組む態度を育成する。	A	78.3%	49.5%	62.0%	全体的には評価が高いが、児童のC評価が増加している。生活習慣の定着を図る必要がある。	家庭と連携して生活習慣の定着を図る。学校からは生活習慣の乱れの影響について指導をすすめる。	生活指導	基本的生活習慣は食べることから始まると思う。家庭から生活習慣を子供に伝える必要がある。学校では難しいものだと思う。生活習慣の乱れは睡眠時間が主になっていると思う。生活習慣は、家庭でどれだけ指導できるかだと思う。	改善案の通り、家庭と連携して生活習慣の定着を図っていく。学校からは生活習慣の乱れの影響について指導をすすめる。
			B	21.7%	39.6%	30.2%					
			C	0.0%	8.8%	4.5%					
			D	0.0%	0.0%	0.4%					
			E	0.0%	2.2%	2.9%					
家庭や地域との連携	学校と共通の目標の実現に向かって家庭や地域社会との連携を図る。	⑪HPやスクリレ配信を通して、教育活動の状況や情報を家庭や地域に発信していく。	A	65.2%	61.5%	24.1%	教職員のE評価はあるが、A・B評価は9割を超えている。保護者のA・B評価がスクリレが導入されたことにより前期より大幅に上がった。児童のE評価はが2割あり、なかなか評価が難しい項目ではないかと感じる。	HP更新、スクリレ配信はこれからも継続をしていく。また、スクリレでどのような学習の様子が配信されているか児童と共有し、児童へスクリレ配信についての認知をさせていく。	情報・視聴覚	スクリレは、学校と家庭の円滑なコミュニケーション手段だと感じる。行事ごとに配信されていて楽しみにしていた。すごく安心感のある通信手段だと感じている。	HP更新、スクリレ配信はこれからも継続をしていく。また、次年度より、学校だよりや学級通信等の配布物を、スクリレ配信に変更していく予定である。
			B	26.1%	36.3%	33.9%					
			C	0.0%	0.0%	12.2%					
			D	0.0%	2.2%	7.3%					
			E	8.7%	0.0%	22.4%					
		⑫学校便り、学校公開、道徳授業地区公開講座、地域の教材化や地域の教育力の活用などを通して、相互の連携・交流を密にし、信頼関係を深めていく。	A	47.8%	35.2%	46.9%	A,B評価が全てで8割を超えている。C,D,E評価も1割近くある。外部講師を招いた学習をしていたが、地域へ出ていくという活動が少なかったためかと考えられる。	外部講師を招いた学習とともに、生活科、社会科、総合的な学習の時間で地域の教育力を活用した学びを実践できるようにしていく。	教務	吹上小は、学校だよりなどでの発信がよくされていて、丁寧にできていて素晴らしいと感じている。吹上は、近くに畑・神社・お店や施設があるので、定期的に交流が図れるとよい。	学校だよりなどをスクリレ配信されていない地域に継続して発信している。地域の教材化や教育力を継続実施できるように学年や教科ごとに整理していく。
			B	43.5%	57.1%	35.9%					
			C	8.7%	2.2%	8.2%					
			D	0.0%	0.0%	1.2%					
			E	0.0%	5.5%	7.8%					
		⑬コミュニティスクールの実施による地域に根差した教育を目指す。そのために、学校評価を充実させ、学校と保護者と地域が「チーム吹上小」として、共に取り組む意識を持っていく。	A	43.5%	34.1%	49.8%	A,B評価が全てで8割5分を超えている。各者のアンケート項目は家庭学習によるものであり、C，D評価は、保護者との連携や児童の主体的な取り組みによるものと考えられる。	隔年で、青梅市教育委員会作成の「家庭学習のすすめ」を配布しているが、家庭との連携を図るため、内容について学校発信でさらに、連携を図っていく。	運営	コミュニティスクールは、意見交流によって学校の内情を共有し、児童のどのような資質を育てていくのかを学校と地域が討論する場だと思う。	コミュニティスクール委員との連携を強め、地域に根差した教育を目指す。「家庭学習のすすめ」を活用して、さらに家庭との連携を図っていく。
			B	43.5%	51.6%	31.4%					
			C	13.0%	11.0%	8.2%					
			D	0.0%	1.1%	3.7%					
			E	0.0%	2.2%	6.9%					